

「過疎地域別海町の地方創生を実現するテレワーク利活用実証 ～別海町のワクワク未来を創るプロジェクト～」

一般社団法人 Be-W.A.C.（北海道野付郡別海町）

■実証概要

- 別海町という豊かな資源（漁業・農業・高い出生率）のある町に、ITインフラを整備し、町民のIT利活用を促進することで、町民の内外に対するコミュニケーションを活性化。テレワークやサテライトオフィスに関心の有るIT企業、起業支援団体、学生などを中心とした「人の流れ」を生み出し、人材交流を促進する。別海町の豊かな自然資源と近未来のビジネスとの融合を軸として、地域が運営・自立し、持続可能な地方創生モデルを実現することを目的とする。

■実証成果・課題

成果

- 福利厚生制度を利用したテレワークのモデルの開発
- 仕事と休暇とを組み合わせたモデルの開発
- 別海町の主婦層について、働き方の多様性に対するニーズを確認
- テレワークセンターの運用ノウハウ

課題

- テレワークセンターの維持運用の負担
- テレワーカー向け生活関連サービスの利便性向上の必要性
- 地域住民参加型のテレワーク促進

■実証終了以降の取組内容

- サテライトオフィスの運用。光進旧小中学校（戸建て施設を含む）およびマルチメディア館については、別海町が運用管理を継続。
- 夏季期間の滞在型テレワークを次年度も予定。
- 企業機能一部移転モデル検証の実証に参加したテレワーカーが、事業終了後も別海町でのテレワークを継続。

1. 実証概要

実証団体

代表団体	一般社団法人 Be-W.A.C.
実施団体	別海町 北海道 株式会社オーレンス 日本マイクロソフト株式会社 株式会社ダンクソフト
実証地域	北海道別海町 (公募区分:ア 過疎地域モデル)

本事業推進のために設立、コミュニティを活性化・拡張しつつ実証と実証後の継続運用をドライブ

既存施設を利活用したテレワークセンター

旧”光進小・中学校”校舎 (廃校になった校舎)

- ・H.20 小・中学校ともに廃校
(最終在校生32名/23名)
- ・H.6 建設、鉄筋2階建
- ・2,284㎡, 体育館800㎡
- ・1F 元小学校・2F 元中学校
- ・教職員住宅を宿泊施設として町で改装



別海町マルチメディア館

- ・別海町地域情報化推進のための啓蒙・普及活動の場
- ・既存施設の一部をパーティション化して、別海町市街地、別海町東部に在住するテレワーカー向けに環境を提供

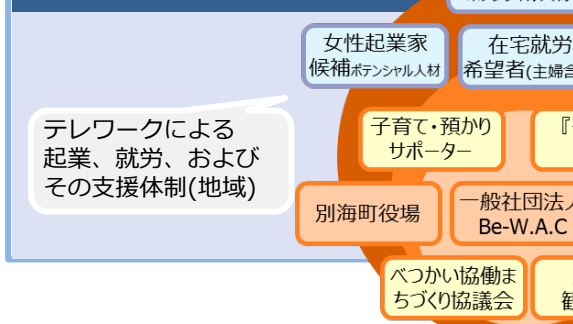


実証内容

1 類型C 起業人材育成・地域雇用支援検証

- ・起業人材育成
- ・地域雇用支援検証（クラウドソーシング）
- ・起業シンポジウム、起業セミナー
- ・クラウドソーシングセミナー、ライティング講習
- ・IT活用リーダー育成

就労・起業モデルの構築・実証



2 類型A① 滞在型テレワークモデル検証

- ・別海町の地域資源、特に夏季における気候、自然環境の強みを活かし、都市部企業が従業員に対して、夏季休暇と1～2週間の短期滞在のテレワークを組み合わせた福利厚生制度を提供し、従業員が別海町にてテレワークを行う

テレワーク推進企業による短期滞在テレワーク環境としての別海町の魅力を発信

- ・テレワークで社内システムへのアクセス・帯域・技術検証
- ・滞在ライフに関するフィードバック
- ・ボランティア活動で地域との交流
- ・情報発信

3 類型A② 企業機能一部移転モデル検証

- ・テレワークセンター内にサテライトオフィスを開設する。
- ・都市部企業の従業員がテレワークセンターにてテレワークによる業務を行う。
- ・対面での会話がないうちでの就労が、作業成果の品質、作業成果の生産性、従業員の仕事への満足度のどのように影響するかを検証する。

機能移転の検証と実証参加

2. 実証成果・課題

移動人数、地方就業人数

				移動 人数	地方就業 人数
類型	A	滞在型テレワークモデル検証 企業機能一部移転モデル検証	短期滞在	25	-
			長期滞在(事業期間中)	1	-
			移住(事業後継続)	-	-
			小計	26	0
	B	地域雇用支援検証	移住(Uターン)	1	-
			移住(I ターン)	-	-
			移住(その他)	-	-
			小計	1	0
	C	起業人材育成・地域雇用支援検証	特定企業との業務委託契約	-	-
			クラウドソーシングの利用	-	5
			起業(上記以外)	-	-
			個人事業主(上記以外)	-	2
			小計	0	7
	D	都心部の企業が、テレワークで働く人材を、 新規に地方で採用する(雇用型)	雇用(事業期間中)	-	-
			雇用(事業後継続)	-	-
			小計	0	0
			総計	27	7

2. 実証成果・課題

実証成果

技術面の成果

- 本社で利用しているクラウドシステム（Office 365）を、そのままサテライトオフィスでも利用
- 常時接続環境による社内コミュニケーションの実現
- 見守り機能付きの託児サービス
- 公共交通機関を補足するカーシェアリングシステム



運用面の成果

- テレワークセンターの運用ノウハウ
- 冬期の廃校を少人数でサテライトオフィスとしての利用
- クラウドソーシングで時間あたりの報酬を高めるアプローチ

別海町における 実証事業の成果

制度面の成果

- 福利厚生制度を利用したテレワークのモデルの開発
- 仕事と休暇とを組み合わせたモデルの開発



その他の成果

- 家族帯同でのテレワークに関する実証参加者からの高い評価
- 別海町の主婦層について、働き方の多様性に対するニーズを確認できたこと（クラウドソーシング）



2. 実証成果・課題

課題

テレワークセンターの 維持運用

- 市街地からテレワークセンターまでの移動距離が長く、移動時間がかかる中での施設管理が負担となる。
- センターの規模が大きく、通年利用を想定した場合、コストパフォーマンスは良いとは言えない。光熱水費（基本料金、冬季の暖房費）、施設清掃費、施設周辺環境整備費など、年間の維持管理費が負担となる。

テレワーカー向け生活 関連サービスの利便性

- 公共交通が脆弱な地域である。特に「空港⇄テレワークセンター」「テレワークセンター⇄各施設」の移動については、便数が少なく接続の悪いバスのほか、公共交通機関がない中での車での移動は必要不可欠。
- 都市部からの移動コストが高い。中標津空港及び釧路空港を利用したフライト移動となるが、ピークシーズンはフライト代が高価である。

地域住民参加型の テレワーク推進 シナリオ

- テレワーク促進を通して、地域の産業振興、雇用促進、移住定住促進をどのように実現していくかについて、地域住民の同意を得られるようなシナリオ作りが必要である

3. 実証終了以降の取組内容

実証成果を活かした、新たな取組内容

民間事業者

- 行政、地域に根付いた各種団体、都市部企業等と連携を図る。
- 情報発信基盤（総合型情報 Web サイト）の整備・運営
- 滞在型テレワーカー等への滞在・移動支援
- 町民参加型の各種町内プログラムの企画・運営

別海町

- 民間事業者、地域に根付いた各種団体、都市部企業と連携を図る。
- 情報発信基盤（総合型情報 Web サイト）整備に伴う、掲載情報等の提供・支援
- 各種町内プログラム支援のためのハードウェア（テレワークセンター・高速通信基盤等）整備
- 各種町内プログラム等遂行に係る政策的支援

北海道

- 事業推進主体、町など関係者との連携を図りながら、各種町内プログラムの企画・運営等への協力支援の実施
- 道のホームページ等の活用による移住・定住や別海町の取組に関する情報の発信
- 道単独補助事業の活用による財政的支援の検討

継続する取組内容

- ✓ サテライトオフィスの運用。光進旧小中学校（戸建て施設を含む）およびマルチメディア館については、別海町が運用管理を継続。
- ✓ 夏季期間の滞在型テレワークを次年度も予定。
- ✓ 企業機能一部移転モデル検証の実証に参加したテレワーカーが、事業終了後も別海町でのテレワークを継続。

3. 実証終了以降の取組内容

「未来の担い手」 + 「テレワーク」 = 「まちの未来」



高校生のためのワークショップ

テレワークがある まちの未来を考える

「テレワーク」場所に捉われない自由な働き方の形。
テレワークを通じて、まちの未来をデザインするワークショップ



3月30日水 10:00-19:00

開催：本覚寺 別海町別海旭町206

定員：高校生20名 大人10名

▶ランチタイムあり

▶18時～の発表はどなたでも観覧可能です

要予約
参加無料

お問合せ・予約

☎ 0153-75-1191

主催：Be-W.A.C.

後援：別海町 北海道

協力：日本マイクロソフト Make it creative

